

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や手術の記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ記録や手術記録を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

ケロイド・肥厚性癬痕における線維芽細胞およびマクロファージの細胞内シグナル解析について

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院 形成外科

【研究責任者】 森 秀樹 (形成外科 講師)

【研究代表者】 森 秀樹

【研究の目的】

ケロイドおよび肥厚性癬痕（ひこうせいはんこん）は手術やゲガなどをきっかけに傷跡が盛り上がり、痒みや痛みを伴う病態です。どちらも良性のものです。肥厚性癬痕は年数とともに徐々に落ち着いていくのに対し、ケロイドは正常組織を越えて広がり、搔痒感や痛み、細菌感染を伴うことで日常生活に支障をきたす場合もあります。ケロイドの原因はいまだにわかっていませんが、ケロイドに対する基礎研究や治療に対する国際的な関心が高まっています。私たちはケロイドを作る中心となっている線維芽細胞（せんいがさいぼう）と体中に存在して免疫を担当する細胞（マクロファージ）の関連を調べることで、この病気の原因の究明につながると考えてこの研究を行うこととしました。

【研究の方法】

- ①ケロイドまたは肥厚性癬痕の一部を局所麻酔下に5mm くらいの大きさをメスで切り取り、その部分は縫合します。
- ②同時に肘から採血を20mlほど行います。

- ③縫合部は翌日よりシャワーで洗浄して清潔ガーゼで保護していただきます。
- ④1週間後に抜糸します。
- ⑤その後は現在行っている治療（ステロイド外用、ステロイドテープ、ステロイド局注など）を継続します。

【個人情報の取り扱い】

本研究は「個人情報保護法」(平成17年4月1日施行)および「疫学研究に関する倫理指針」(文部科学省・厚生労働省 平成19年8月16日改正)を遵守しています。情報は本登録のため新規作成した「日本形成外科学会疾患登録アプリケーション」で入力・暗号化、復号・集計されますが、高度の暗号化機能を有し、犯罪的行為等で情報メディアが第三者の手に渡っても内容解読は不可能です。

また、姓名、生年月日などの個人情報は登録情報に含まれず、研究対象者である患者さんが不利益を被ることはありません。

< 試料・情報の管理責任者 >

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-096-5350